

特許抄録

第21卷第5號 昭和10年5月

セメントの製法

(特許第 109620 號 優先權主張 8-4-26)
發明者 ビエル・コイフニ氏

此の發明は、爐の最高温度の帯域に於て、生じた燒塊を、その最高温度帯域より、之よりも温度の低い爐の終端部分を通過することなく、空氣(又は酸素の含有量の大なる其の他の瓦斯體)の存在しない冷所に直接に置し、急冷せしめることを特徴としたセメントの製法であつて、之に依つて、高温度に於て有する組成を保存し、且つ粉碎容易な燒塊を得て、在來よりも抵抗の大なるセメントを得んとするものである。

頁岩灰混合セメント製造法

(特許第 109626 號 出願 8-11-29)
特許權者(發明者) 永井彰一郎氏

此の發明は、特許第 88370 號の第 2 要素の資料を擴張したものであつて、即ち油母頁岩を乾溜して頁岩油を製造する際に、副生すべき頁岩灰と石灰水とから、頁岩灰セメント燒塊を燒成し、之を第 1 要素とし、更に第 2 要素としては、可溶性珪酸及び可溶性礬土を多量に含有するもの、例へば高爐鑛滓珪藻土、珪酸白土、溶珪白土若くは火山灰等を用ひ、之等第 1 及び第 2 要素を混合して、微粉に粉碎することより成る頁岩灰混合セメント製造法であつて、之に依り、セメントに海水、下水等に對する抵抗力強く、且つ長期高強度の特性を與へやうとするものである。

硬水軟化劑製造方法

(特許第 109691 號 出願 9-3-17)
特許權者(發明者) 田中三朗氏

此の發明は、海綠石又は海綠石を含有する砂岩を無水鹼中に於て加熱し、アルカリで處理し、之を無機酸で中和し鹽化カルシウム又は鹽化マグネシウムで煮沸してなる硬水軟化劑製造方法であつて、之に依り、長く使

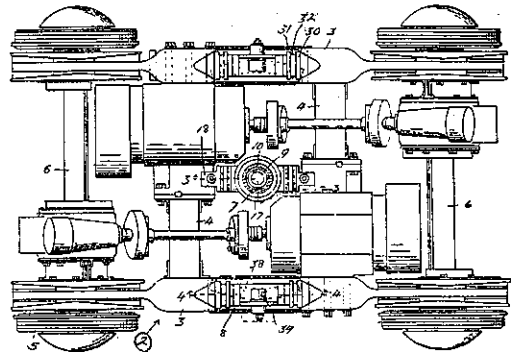
用し得る硬水軟化劑を得んとするものである。

軌道車輛の車體用彈性裝置

(特許第 109619 號 優先權主張 8-4-17)
特許權者(發明者) エミル、エツチ、ピロン氏

此の發明は、車體と車臺(2)間に配置せられ、(第 1 圖)、荷重には無關係な一定周期を有する中央發條(第 2 圖)と側部發條(第 3 圖)とより成り、之等發條は夫

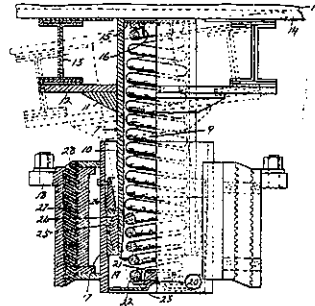
第 1 圖



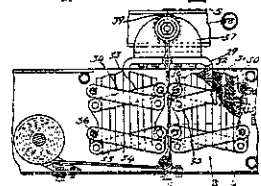
々個々に車體の重量の一部を支持し、中央發條は樞軸的(第 2 圖の 20)に裝架せられ、側部發條は水平環狀軌條(第 3 圖の 38)

に依つて滑動的に連結し、以て車臺をして中央發條の周圍に旋回し得るやうにした軌道車輛の車體用彈性裝置であつて、之に依つて、衝撃の加速度を變じて車體に傳へられた振動を實際的に可及的に快適な範圍のものとし、且つ遊動的運動を

第 2 圖



第 3 圖

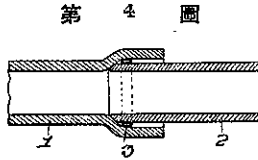


避けて、車體の各方向の運動を適當にし、又乗心地を一層快適ならしめやうとするものである。

鉛 管 接 合 法

(特許第 109735 號 出願 9-2-16)
(特許權者(發明者) 青木 了氏)

此の發明は、接合せんとする 1 鉛管 (2) の一端外側に、完全な填料ゴム管 (3) を嵌裝し、之を他の鉛管 (1) 内に挿入し、上記のゴム管を扁平状態とし、次に固形鐵を挿入し、外部から加熱し、先づゴム管を内部の空氣の膨脹に依つて鉛管に壓着、破裂、融着せしめ、次に鐵が熔融し、同時に各鉛管の接合端も幾分熔融せらるやうにした鉛管接合法であつて、之に依り鐵の鉛管内に流れ込むことを防止せんとするものである (第 4 圖参照)。



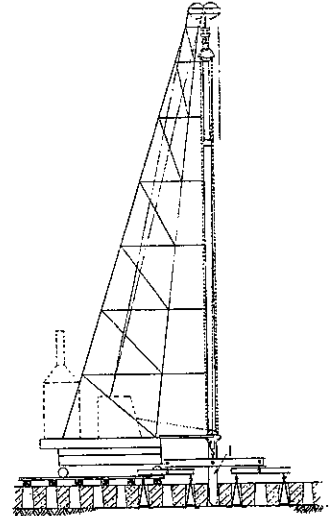
杭又は杭製造用外管を靜的に押込み又は捻込む方法

(特許第 109841 號 出願 9-8-9)
(發明者 黒田武定氏 特許權者 鐵道大臣)

此の發明は、杭打を施工するに當り、豫め杭挿入のための穴を残した基

第 5 圖

礎工を施し、之を對重として利用し、杭又は杭製造用の外管を靜的に押込み又は捻込む方法であつて、其の利點とする處は、豫め基礎工を施すか故に、作業足場は確固であり、且つ之を對重として利用し、打撃を用ひずに靜か



に杭又は杭製造用の外管を押込み又は捻込むか故に、騒音と震動を防止し得る點である (第 5 圖参照)。